

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2779101803
法人名	株式会社カームネスライフ
事業所名	グループホームここから加島
訪問調査日	平成 20 年 9 月 2 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2779101803
法人名	株式会社カームネスライフ
事業所名	グループホームここから加島
所在地	大阪市淀川区加島四丁目17番29号 (電話)06-6305-1231

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月2日	評価確定日	平成20年10月3日

## 【情報提供票より】20年5月5日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9.4 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2階~3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

## (4)利用者の概要(8月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	(財)西淀病院・ファミリークリニックなごみ・吉村歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

J R 東西線「加島駅」から徒歩10分の工業地帯にある。法人のカームネスライフは奈良県、大阪府、兵庫県でグループホームを運営している。医療法人と提携し医療で培った力と技術を取り入れ、心と体を大切に、地域住民の一人として当たり前のような生活できるよう支援している。館長は看護師の資格を持ち、医療の知識が生かし、明るく、自由で、家庭的な雰囲気の安心した暮らしが営まれている。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎日のカンファレンス時にも話し合い、職員全員で取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	議題は入居者の現況、レクリエーション、食事内容、地域との関り、感染防止など、よく考えられた内容になっている。町内会長の出席で地域との関りに努めているが、市の介護保険課、民生委員の出席が実現し、更なる地域との連携を期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会(年に2~3回開催)や運営推進会議で、意見・苦情が話し合われ、管理者、職員でより良いケアに反映されている。家族にも報告され、共有している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の幼稚園との交流、町内会や神社の行事への参加、また町内会役員会へ出席など、様々な形で事業所も地域住民として取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人と人との温かいふれあいの心を大切に日々の福祉サービスに努め、入居者や地域の方々と共に、よりよい地域福祉の実現に寄与する。①尊厳と自由の厳守②入居者・職員は共に生活する関係である事を認識する③入居者中心の自立支援④サービスの質の向上に取り組む、を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、新人研修で詳しく説明をしている。また玄関に掲示し、毎日の朝礼で唱和し、管理者・職員共に理念を共有し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の役員会に出席し、認知症・高齢者を理解してもらう努力している。地域の掲示板にホームのお知らせを掲示してもらっている。地域の夏祭り、神社の行事に参加し、近隣の幼稚園との交流も行っている。地元の人がホームのために野菜を作ってくれるなど、よい関係を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価になる。毎朝のカンファレンス時に職員の気づきや思いを大切にしている、評価の意義を話し合い、管理者が記入した。今後も評価を活かし、より良い取り組みに努めたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回開かれていて、地域包括支援センター、町内会長、入居者、家族が出席し、よく考えられた議題で活発に話し合われ、サービスの向上に生かされている。市の介護保健課、民生委員の出席は依頼しているが実現できていない。	○	更なるサービスの向上と地域に開かれるホームを目指す上でも、市や区の介護保険課、民生委員の出席が実現できることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険申請の代行、後見人制度の利用などもあり、質問、問い合わせなどで密に連絡し、連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所の新聞、法人からのホーム便りを2ヵ月に一回発行し、家族に郵送している。毎月の請求書に利用者の状況を詳しく記入し送っている。金銭は預からないで、立替え請求している。個人の写真アルバムを作り、家族にも見てもらい、暮らしの状況が分かるよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者を決め、入居時に重要事項説明書に示して家族に説明している。苦情があった時は職員全体で考えて対処し、家族へは運営推進会議議事録に記入して送っている。家族会でも話し合っている。家族との交流は密で、楽しい関わりが出来ている。玄関に苦情箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員が替わる時は、よく説明している。ユニット間の職員の交流をよくしていて、馴染みの関係を作り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。職員の異動は殆んどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時はOJTにより指導している。新任研修は本部で年4回ある。現任者は内部研修を年3回以上受ける。外部研修も積極的に受け、職員全員に報告し、資料は閲覧している。朝礼時に「朝の一言」の研修があり、看護師の資格をもつ管理者が医療に詳しい内容で進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区のグループホームと加島にあるグループホームとが、情報交換、管理者や職員の相互訪問、また勉強会を実施し、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人、家族とアセスメントを充分に行い、見学や一週間の体験利用、併設のデーサービスの利用時に体験する等、本人が納得し馴染めるように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重し、今までの生活がホームでの生活にいかせられるよう支援されている（洗濯物たたみ、食事用意、食器片付け、掃除、野菜作りなど）。お茶の時間を大切に、利用者から人生経験、風習など聞き学び、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとのコミュニケーションをよくし、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、生活暦を参考にしたり、家族の意見をよく聞き、本人の納得いく対応を職員が中心となり検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の担当職員を決めてアセスメントを綿密に行い、ケアプランの内容を検討している。気づきや提案を毎日記録し、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に一度の見直しの確認のため、職員が介護経過を読み、検討している。また、本人、家族の希望を聞き、介護計画の見直しをしている。状況が変化した時には随時対応し、計画の変更を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参り、通院介助、買い物等の外出送迎、お誕生日での本人希望に応えるの支援（家族と外食、動物園に行く）等々、利用者の希望に出来る限り柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し、今までのかかりつけ医での受診に対応している。提携医療機関からの往診、また薬の変化などがあれば、そのつど家族にも説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「看取りの指針」を説明し、確認している。重度化した場合には、本人、家族、医師、職員と話し合い、方針を共有し、看取りを行なっている。緊急時には、管理者につながる24時間体制をとっている。看取りの事例もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや声かけは特に注意し、人格を傷つけないよう努めている。申し送り時には、イニシャルで話すようにするとか、記録などの個人情報の取扱いに注意し、研修も行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まってるが、起床時間、食事時間等は個々の生活リズムを優先している。どこで食事するか、どこで過ごすかも個人の希望にそっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者メニューだが、ホームで考えた献立のお楽しみ昼食が週に2回、パンバイキングの朝食が週に一回、月一回の外出などと楽しい工夫があり、食事場所もベランダやソファでなど自由に行っている。食事の用意、片付け、味付けに参加することで一人ひとりの力を生かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて入浴している（夕方5時まで）。明るい浴室で楽しめるよう支援されている。また自立した人には夜間入浴もできるよう検討中である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活力が生かせるよう、雑巾がけ、針仕事、雑巾縫い、草取り、野菜作り、洗濯物たたみ等で役割をはたし、絵手紙、習字など得意なもので気晴らしできるよう支援している。お茶の時間の話相手が喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	早朝に公園へ散歩し、そこでお茶を楽しみ、買物への送迎のほか、日帰り旅行や遠出の外出などの支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は居室・玄関・エレベーターは開放されており、利用者は自由に行き来している。夜間のみ施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署の立会いで年2回行なわれ、町内会長にも協力は依頼している。災害時には、ホームを避難場所に提供する事も約束している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食材は業者から配達され、調理は事業所で行い、キザミ食など一人ひとりの状態に合わせている。食事摂取量の状態は個別に記入している。水分量の確保は管理者の指導で行き届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はベランダに面し明るく、大きな食卓、コの字に置かれたソファ、キッチンがあり、自由にのびのびと過ごせる。浴室は大きな窓があり明るく、家庭的である。トイレの表示もよく分かる。廊下の一角にベンチが作られ、寛げる場所になっている。壁に絵手紙・似顔絵が、大きなベランダには野菜や植物があり、季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの箆笥、机、イス、写真、飾り物などが持ち込まれ、入口にはそれぞれの工夫された表札がかかっていて、居心地よくする工夫が見られる。		